



### 天草ボン作り

“ボン”って何だろう？と感じる方が多いかもしれませんが、“ボン”とは天草を固めた俵状の塊です。

昔はボンをつくるために、写真のように天草を踏み固めました。その様子を「樽ダンス」と呼び、須崎では長年続く光景でしたが、高齢化などにより、現在は機械化されました。

こういった文化があったことを伝えるため、下田まち遺産に認定されています。



### ひもの横丁

水産店や干物店が多く集まる地区で、アジやイカなどが道路脇のそこかしこに干され、いつしか「ひもの横丁」と呼ばれるようになりました。

下田では当たり前の風景として定着していますが、市外・県外の方は驚いた様子でレンズを向けています。

干物が干されているのは、晴れた日の午前中です。皆さんも港町下田の風情を味わいに出かけてみてはいかがでしょうか。

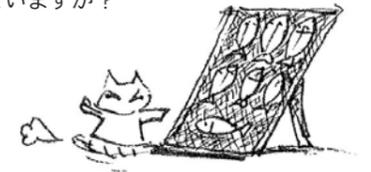


### 吉田松陰寓寄処

静岡県指定史跡である吉田松陰寓寄処は、嘉永7年(1854)3月18日に下田に来た吉田松陰が皮膚病治療のために訪れた蓮台寺の共同湯で、偶然にも医者ひらやまの村山行馬郎むらやま ぎょうまろうと出会い、その厚意によって数日間滞在した場所です。

# 知っていますか？ 下田まち遺産

現在 151 件の下田まち遺産が認定・登録されています。今回は一部を紹介しますが、皆さんはいくつ知っていますか？



### はまぼう樹林

黒潮が近海を流れ、年間を通じて温暖な気候の下田で育まれた樹林です。「はまぼう」の名は江戸時代末期に長崎へ来た医者シーボルトに命名され、7月～8月にかけて南国情緒ある黄色い花を咲かせます。

群生地を縫うように設置されたボードウォークからの眺めは美しく、平成10年(1998)には静岡県都市景観賞を受賞しました。ボードウォークの下にはカニの巣穴がたくさんあり、かわいい頭をのぞかせています。



もっと下田まち遺産を知りたい、見たい。

**下田まち遺産手帖を  
無料発行中！**



下田まち遺産手帖は、景観施策に関するニュースや下田まち遺産などを紹介するフリーペーパーです。年2～3回発行し、市内公共施設やスーパーなどに設置しています。

また、市ホームページでもバックナンバーを掲載しています。私たちのまち下田をもっと好きになるためにも、ぜひご一読ください。



### 神子元島灯台

下田港から南へ10km程の海上に浮かぶ無人島「神子元島」。黒船来航で知られるペリー提督の記した日本遠征記に「Rock Island」と呼称された岩礁でもあるこの島には、約140年前から人々を見守り続けている灯台があります。

神子元島灯台は、「日本灯台の父」と呼ばれる英国人プラントンが監督し、下田から切り出された伊豆石を緻密に積み重ねて建造されています。



### 報本寺山随権現祭礼幡廻し

山随権現は土肥の豪族・富永政重といわれています(諸説あり)。戦国時代から江戸時代にかけて加増野には浪人が流れ込み略奪などが横行したため、富永氏は加増野の村人を8組に編成し、それぞれに勇猛果敢な家臣をつけ、浪人を撃退したといわれています。

この富永氏の遺徳を偲び、元禄2年(1689)頃から幡廻しが始まり、その後、厄除けや五穀豊穡の祈願などの意味を加えながら、現在の形が完成したといわれています。

毎年8月11日に行われる幡廻しは高さ7m程の孟宗竹を、トラと呼ばれる8人組の若衆とアトヒキといわれる15～6人の若衆が境内を引き回し、竹を倒すことなく回しきればその年は豊作で疫病は退散すると伝えられています。

### 獅子鼻岬

獅子の鼻の形をした岩が特徴の岬で、まるで獅子が伏せているように見えます。昭和を代表する日本画家といわれる東山魁夷画伯が、皇居の襖絵を描くためにスケッチに来た場所です。

紺碧の海と白浜大浜海岸を背景とした眺望は絶景で、この景色を後世に残したかった東山画伯の気持ちがうかがえる下田まち遺産です。



### ハリスの小径からの眺望

初代の米国総領事ハリスの駐在した玉泉寺が近くにあることから名づけられました。穏やかな海に多くのレジャーボートを眺めることができ、ゆったりとした時間を感じられます。さらに夕暮れ時にはオレンジ色の光が海面を照らし、まるで光のじゅうたんのようです。